

Kameda

2024.1 No.277

巻頭言

LEADER'S VISION

年男・年女



かめナビ 病院を守る

16

働くナースの日々の景色から

看護の目

18

亀田グループのニュースを知る

Close Up News

20

オルカ鴨川FC 10年の軌跡

22

医療を支える部署をご紹介します

病院は誰かの仕事でできている



2024年を迎えるにあたって

医療法人鉄蕉会 理事長 亀田隆明

2020年から続いたコロナパンデミックが一応2023年に終焉を迎え、我が国においては平時となりました。一方、世界に目を転ずると時代が一世紀戻ってしまったような紛争が多発し、人類の愚かさを感じる今日この頃です。

我が国の病院経営においては、紛争や円安による燃料費の高騰をはじめ、海外からの輸入割合が多い薬剤や診療材料費の値上がり、その他すべての物価上昇によるコスト増が大きく経営を圧迫しています。診療報酬は基本的に厚生労働省によって2年に一度改定され、2024年度は診療報酬改定年度にあたります。この物価高騰、賃金上昇をどこまで診療報酬に織り込んでいただけるか未知数ですが、病院に価格決定権がない以上、せめて公共工事のように物価スライド制を取り入れていただきたいものです。

また、2024年度は医師の働き方改革という大きな改革が行われます。我が国の医療が、医師をはじめとする医療従事者の犠牲のもとに成り立ってきた部分もあることは事実ですが、患者さまを犠牲にすることはできません。

このような厳しい環境下で、医療法人鉄蕉会はどのような方針で進むのか、私の考えは次の2点に集約できます。

1. 国際化の推進

従来鉄蕉会は、アメリカや中国をはじめとする海外との関係を重視して、ローカル&グローバルという方針で今日を築いてきました。コロナによるパンデミックによって中断せざるを得なかったグローバルな部分を再開する。これは、医療分野のみならず民間同士の絆を深め、紛争抑止の小さな一助にしてゆくためにも重要だと考えています。

2. 地域や困難症例の患者さまにとって最後の砦となる

医師の働き方改革の行方はわかりませんが、医療に取り残される患者さまが出てくる可能性は否定できません。優秀な医師陣が揃う亀田総合病院は、改革にも柔軟に対応しつつ、コロナパンデミック時でもそうであったように、患者さまにとって最後の砦となることを目指します。



若い力とともに

亀田総合病院 病院長 亀田俊明

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症が5類へと変わり、久しぶりに対面での付き合いが戻ってきました。すべてが正常というわけではありませんでしたが、それでもKameda Cup10回記念大会やオルカ鴨川FC優勝祝賀会など職員同士楽しそうに顔を合わせる機会を作ることができ、コミュニケーションの大切さを再確認いたしました。

長年耐震問題で懸念されていたD棟も解体に着手することができ、予定通り今年度中に工事が終了します。敷地内にユニクロも開業し、また少し利便性が高まりました。

新たな病院改革として重要事項であるDX(デジタルトランスフォーメーション)に対しても、

昨年11月より新たにCDO(Chief Digital Officer)を招き、今年力を入れて推進していく予定です。生成AIをはじめ様々なITツールが出てくる中、どのように上手く活用していくかが、今後の人員不足問題に対する解決策の主軸となると思っています。

今年は初期研修医から後期研修プログラムに残ってくれる医師が5割以上と例年と比較しても大幅に増えました。2年間当院で勉強し、しっかり各科を見た上で残ってさらに勉強を続けたいと思ってもらえるのは最高の栄誉だと思っています。

今年もこれらの若い力と共にさらに良い医療が提供できるよう励みたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



Local & Global を見据えた医療DX推進を

亀田クリニック 院長 黒田浩司

亀田クリニックにおける医療DXの現在地は、まだまだ入り口の段階にとどまっています。単にペーパーレス化やシステム導入が始まったばかりでIT導入を進めてはいるものの、デジタル技術の活用により業務そのものに対する考え方や組織・プロセスで効率の悪い内容の変革にまでは残念ながら至っておりません。

これまでスモールスタートとして電子案内板の導入・処置オーダーの変更や医療情報管理アプリNOBORIのぼりの活用促進をすることで院内のITリテラシーを高める取り組みを始めてきましたが、このことでクリニックは「変わるんだ」と職員のマインドが変わるきっかけ作りまでは進んでいます。新しい一年は、本当の意味でのDXにおいて挑戦と機会が溢れた時期となるでしょう。

医療分野は常に進化しており、私たちのクリニックも進歩し続けなければなりません。患者さまの期待に応え、さらなる医療の質の向上を図るため、スタッフ一同が力を合わせて努力いたしましょう。また、地域社会との連携も大切です。私たちは、地域の健康促進活動に積極的に参加し、地域のニーズに応じたプログラムを提供することで、地域社会へ貢献するとともに連携を一層強化し、地域社会とも共に成長していきたいと思っています。

亀田メディカルセンターの理念

私たちは、全ての人々の幸福に貢献するために
愛の心を持って常に最高水準の医療を提供し続けます

最も尊ぶこと：患者さまのためにすべてを優先して貢献すること

最も尊ぶ財産：職員全員とその間をつなぐ信頼と尊敬

最も尊ぶ精神：固定観念にとらわれないチャレンジ精神





亀リハ開院20周年への進化

亀田リハビリテーション病院 病院長 永田 智子

亀田リハビリテーション病院は2024年6月に開院20年を迎えます。世界的な建築家・安藤忠雄氏による初の病院建築で、亀田総合病院健康保険組合体育館、保育所併設で多様性先駆けの空間でした。

当院は、医学的管理、看護とケア、適切な栄養管理、標準的なりハビリテーション治療のための機能充実、療養環境整備を実践しています。2021年以降はリハビリテーション訓練用装具拡充と回診開始、超音波診断装置更新、機能的電気刺激装置(NESS H200、L300)・ビデオ嚙下内視鏡新規導入に加え、骨粗しょう症治療・栄養・口腔機能管理充実のため全入

院患者さまへの口腔検診推奨とInbody®による体組成計測、亀田メディカルセンター・歯科センターとの連携強化で質的医療機能の充実を図っています。2023年は全ての電動ベッド・介護用椅子を刷新、車椅子リース事業の業務改善も行いました。開院20周年目の今年、1階エリア改修工事が竣工予定で、ゆとりの空間であたたかなチーム医療充実をめざします。

当院で回復期リハビリテーションをうけられる全ての患者さまに笑顔で帰っていただくために、ハード面の整備に加え、職員一同自らが考え、挑戦し、変化に対応し行動するよう進化してまいります。



大きな飛躍の第一歩に

亀田ファミリークリニック館山 院長 岡田 唯男

2024年は、甲辰(きのえたつ)、「これまでのコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすくくと伸びて、努力が花を咲かせる」という年になるそうです。おかげさまで、亀田ファミリークリニック館山は開院から18周年を迎えます。

診療においてもたくさんの方に受診いただき、地域医師会活動への貢献としては、当院の医師が手分けをして、地域の幼稚園、高校を含め20ヶ所以上の学校医を務めさせていただくようになりました。

家庭医療専門医の育成においては、日本プライマリ・ケア連合学会の認定する家庭医療専門医の専門医試験受験者の中から数名が選ばれる成績優秀者の中に、日本のプログラムの中で唯一、6期連続で表彰者を輩出する快挙となりました。(次点は3期連続)

2024年度の事業計画ですが、これまで懸案事項であった、建物の老朽化について立て替え、移転などの計画を具体的なものにする年となりそうです。

可能であれば、今までになかったような形を目指して新しい診療所のあり方を提案できればと思います。また、これまで以上に地域のさまざまな人たちとの連携、コラボレーションを通じて、これまで日本の医療が対象としてこなかったような、孤立、孤独、地域のつながりづくりといったSDH(健康の社会的決定要因)への取り組みも前へ進めたいと思っています。

「当院の存在が、人々が、館山に越してくる、館山に住み続ける1番の理由になろう」をこの数年のスローガンとして活動をしています。本年度も皆様にとって素晴らしい年になりますよう。



亀田京橋クリニックのこれからの新たな目標

亀田京橋クリニック 院長 岸本 誠司

昨年、亀田京橋クリニックは開設10周年を迎え、今年から新たな10年に向けて発進しようとしています。これまでの10年は、新設クリニックとしての診療体制の確立、経営の安定化が大きな目標となってきました。今後は、医療とサービスの質を一段と向上させ多くの方にご満足いただけること。さらに当クリニックの知名度を上げ、より多くの方にご利用いただけるようにしていくことが2つ大きな課題と考えています。

そのサービスの質の向上を目的として、今年度は職員のレベルアップを図るため多くの研修や勉強会を計画しています。例えば接遇研修、コーチング研修、クレーム対応勉強会、医師による疾病勉強会等々です。これにより

多くの職員が自信を持ち、誇りを持って働いてもらえるような職場作りを目指していきたいと考えています。

また、当クリニックについては、多くの医療施設が集中している東京では、折角亀田ブランドの良質な医療を提供したいと願っていても、まだ認知度が低く、ご利用者が限られているのが現状です。そこで、当クリニックおよび亀田グループにおける様々な優れた先進的医療を多くの方に知っていただけるよう、国内外に向けて様々な形のSNSを発進していく予定です。



2024年に取り組みべき課題

亀田森の里病院 病院長 高木 敦司

昨年度は、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、通常診療の再構築を図ることを主眼に診療を実践してきましたが、常勤医の退職に伴い多くの困難がありました。本院も繁忙であるにも関わらず、内科各科から当院にご支援いただいたことを感謝しております。

2018年に新棟に移転後、2階急性期病棟、3階地域包括ケア病棟として運用してきましたが、診療内容は変化させることなく、効率的な運用のために60床の一病棟化に転換いたしました。

森の里周辺は、神奈川県においても高齢化率が高い地域です。外来をされていて感じるのは、地域の高齢化がさらに進んでいることです。訪問看護や訪問リハの充実とともに地域

包括システムのさらなる効率的運用が必要です。また、従来から重視してきた近隣の急性期病院、訪問診療クリニックや訪問看護との連携による入院診療充実は、亀田森の里病院にとっても生命線であります。地域の患者さまのニーズに合った診療には、健全な経営状態の維持が不可欠ですので、職員が一人丸となって収支の改善に取り組んでいきたいと思っております。

2024年度は、診療体制の再構築による飛躍の年にしたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。





私たちの形

亀田総合病院附属 幕張クリニック 院長 和田亮一

鉄蕉会の中期経営計画(2023~2025年)のスローガンは『新たな飛躍への準備』と掲げられています。2024年は2年目になりますが、幕張事業部のテーマは私たちのクリニックの『私たちの形』とし飛躍を期したいと思います。

幕張は人間ドック・検診を主とする事業部は開設して33年になります。毎年多くの受診者にご利用いただき、2022年度も96.2%の高い満足度評価をいただいております。一方で受診者の増加に伴いご希望通りに予約がとれない現状があります。

私たちのクリニックを受診したい方が大勢いる。それは私たちが築いた財産です。その

受診者のご希望に応えるには、幕張事業部の3つの事業部門単位で考え、①ドック・検診、②エグゼクティブドック、③外来診療の括りで目指すべき理念や在り方を共有し、部門単位で『私たちの形』を創造していく必要があります。職種や役職を問わず、向き合って対話を継続する。職員一人ひとりから力をもらい、その力を集約してはじめて受診者を迎える準備ができると思います。

中期経営計画の2年目になりますが、焦ることなく時に遠回りしても一步一步確実に進みたいと思います。



次の世代、未来の子供たちに繋ぐ生殖医療の実現のために

亀田 IVF クリニック 幕張 院長 川井清考

日本国内での生涯にわたる男女の健康の包括的な支援のための体制構築が推し進められる中、フェムテック市場の拡大もあり、女性にとってはライフイベントと仕事も含めやりたいことを両立しやすい環境が整ってきています。当院でも、2022年より開始したプレコンセプション検診に続き、昨年は新たにノンメディカル(社会的)卵子凍結を開始いたしました。

プレコンセプションケアに関する正しい知識の普及や仕組みづくりについては、昨年に引き続き、2024年の重点課題の1つとして取り組んで参ります。日々の臨床に立っていると次の妊娠や多様な環境に応じたポストコンセプションケアについても、我々、生殖医療分野が担う役割は大変大きいと感じます。また、難治性の症例にも多く直面します。不妊症のまだまだ未開拓の分野である生殖免疫により注

力し、日本を代表する施設になれるよう診療の選択肢を拡大していくことが2つ目の重点課題です。

改善可能なリスク因子に早い段階で介入すること、正しい知識を提供することは、次の世代、未来の子供たちの合併症や障害リスクの軽減にもつながります。私たちにできることは、ひとつひとつ貴重な症例を報告として国際学会誌に残しエビデンスを積み上げることが3つ目の重点課題です。そのためにも、患者さまに真摯に向き合い貢献してくれているスタッフたちが、医師だけでなく、コ・メディカルも含めて、積極的に学会・講演会へ参加して研鑽できる環境を作り、発表の促進をすることも私の大事な使命として取り組んで参りたいと思います。



さらなるオーダーメイドの人間ドックを目指して

亀田MTGクリニック 院長 橋本拓平

当院のエグゼクティブドックでは1日3~4名様までとして、おひとりおひとりに時間をかけて向き合っています。予約の際にはお勧めのオプション検査もご案内しており、全身ひと通りチェックができます。また、大腸ポリプの日帰り治療なども行っています。必要に応じて鴨川の本院や他の医療機関をご紹介し、治療後のフォローアップを当院ドックで行うことも可能です。

院長を引き受けて今年は11年目となります。おかげさまで年間700名以上の方に繰り返しご受診頂いております。

内視鏡検査における鎮静剤の効き方には個人差があり、個別に最適な状態を再現できるようにしています。扁平な見つけにくい腫

瘍性病変が出現しやすい大腸の方には、出来る限り見落としを防ぐ観察方法を取っています。このようにして食道や胃、大腸の早期がん/前がん病変に対しては予想が付き発見が可能なのですが、突発的に発症する脳、心臓、血管系の疾患や、消化器の分野でも予測できない疾患をどのように見つけていくかが、今後の課題です。

例えば膵臓がんは毎年ドックで検査をしても、急に進行した状態で見つかる可能性があります。少しでも前段階の状態で見つけるために、リスク因子を多く持っていらっしゃる方には適切な検査間隔をご案内しています。今後とも当院エグゼクティブドックを宜しくお願い致します。





「60年の出会いに感謝」

亀田京橋クリニック
副院長 金子教宏

皆さん、明けましておめでとうございます。
どうも今年は私にとって60回目の新年と誕生日を迎える様です。
24歳で医師となり、医師生活は36年を迎えます。亀田病院には28歳で呼吸器内科に赴任し、非常勤の時期もありましたが34歳で呼吸器内科部長として勤務する様になりました。人生の半分以上、医師生活の70%以上は亀田病院で働いている事になります。そして、この文章を寄稿するにあたり思い付いた言葉が「縁尋機妙」です。人生は会うべき人には会うべきタイミングで会う。その「縁」を大事にすることが「人生」を大事にする事になる、という意味です。私も亀田病院で多くの先輩・同僚・後輩・スタッフ・患者さんやその家族と会う事が出来ました。最大の良縁は私の妻でしょう。その「縁」に感謝して生きていこうと思っています。
還暦では赤いちゃんちゃんこを着るのは、もう一度、赤ちゃんから生まれ変わるような気持ちで再出発すると言う意味です。一度蓄積した老廃物を捨てて、フレッシュな気持ちで一歩ずつ進んで新たな「縁」を結んでいこうと思っています。これからもよろしくお祈りします。最後に、今年が皆様にとって充実した1年となるようお祈りしたいと思います。

「悪女(わる)の頃」

亀田総合病院
医事課 式田紀子

昔、悪女(わる)というドラマがあった。石田ひかり(石田ゆり子の妹)主演の、働く女性の物語だったと思う。その中で主人公が云う。「倒れるまで働きます!!」
今では異常に思えるこの言葉を当時の私は「かっこいい」と感じていた。私は男女雇用機会均等法が施行された頃に就職した。総合職とか一般職とか、そんな言葉が飛び交う時代。私が勤務していた会社は、当時19時45分になると女性は帰らされた。その後も残って働く同期の男性を羨ましいと思っていた。勤務制限がある、故に女性はダメだと思われるのだと考えていた。
しかし、時は流れ、還暦目前の今となってはどうだろう。当時では想像もしない程、疲れやすく疲れがとれない。残業続きの週末は動けない。時間とは残酷だ。そう、人間こうして時と共に老化していく。ずっと同じ時間が経過する訳ではないのだ。
昨年同級生が病気で亡くなった。これこそ青天の霹靂。恐らく彼女も全く予想していなかった出来事だろう。病院に勤務していて、普通の人より「死」は身近であるが、はたして自分のこととして捉えているだろうか。時は永遠ではなく、時は常に変化をもたらす。今を大切にすることの重要性を、若い頃に感じていただろうか。
今思うことは、「やりたいことは先延ばしせずやろう!!」今日と同じ時間は来年訪れない。そうして楽しく生きる事が、予期せず早くに旅立った友へ捧げる、唯一自分出来る事でないかと思う。

「時が経つのも早いもので…」

総務課 課長 石井英樹

2007年に入職して以来、早いもので17年が経とうとしています。前職は、まったく畑の違うエンジニアとして昼夜奮闘していた日々が懐かしく思い出されます。今年で4回目となる年男として、徐々に医療人に近づいてきているものでしょうか。
昨年は、今までの私の人生において少し変革が起きた出来事がありました。数年前から始めた健康作りの一環として継続してきたジョギング。昨年はその中の目標であるフルマラソンの完走に成功する事が出来ました。この成果には、多くの人のサポートがあったことを強く感じています。数千人のランナーとともに同じ目標に向かって走れた事と、自分自身途中で諦めそうになった時でも、沿道からの応援があったからこそ、ゴールを目指すことが出来ました。
このマラソンの経験は、私の医療人としての成長も重なります。今までのこの病院での17年間、紆余曲折ながらも困った時には多くの方々に支えて頂いたからこそ現在の自分があるものだと感謝しています。今後は支えられた分、周囲の人々を支える存在として同じゴールに向かい、これからも今まで培った経験を大切に、患者さまや仲間たちと共に歩み続けたいと思います。
今年もフルマラソンの完走第二弾を目指し、体と気持ちと相談しつつ準備を始め、次回の年男まで日々挑戦を念頭にこれからも人生をジョギングして行こうと思っています。
皆様におかれましては幸多き1年となります様、心からお祈り申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

「年女!まさかの4回目がとうとうやってきた」

亀田クリニック
医事課 角野晴美

1回目の年女は小学6年、中学校入学前でドキドキしながら初々しい女の子だったような? 2回目は結婚、3回目は次女誕生! そしてとうとう4回目!! たくましく頼りになる長女が20歳になる(笑)
振り返ると様々なことがありましたが、今まで沢山の方々に出会い、支えていただきながら、一心不乱に前だけ見て突っ走ってきました。成功も失敗も経験したからこそ、無事4回目の年女を迎えることができたと思います。
私の部署は会計・請求・総合受付・予約センター・庶務・入退院・診療科受付窓口がワンチームのクリニック医事課です。特に診療科受付窓口はパワーみなぎる女性のみみの素敵な部署です。年齢層も幅広く、個性豊かではありますが、【チームワークの良さ】が自慢です。
2024年の十干十二支(干支)は「甲辰(きのえ たつ)」。「甲」は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味します。「辰」は草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子を表します。「甲」と「辰」の合わさる「甲辰」は、これからの成長をさらに形作っていく年だといえます。まさに新たなチャンスへのスタートラインを切り、新しい業務に挑戦するにはうってつけの年ではないでしょうか。益々チーム力が試される年になると思っています。
赤い洋服が似合う年頃になるまで、初心を忘れず、皆さんと一緒に挑戦し続けようと思います。





「夢見る辰男であり続けます」

薬剤管理部 部長 舟越亮寛

この4年近く本当に新型コロナウイルスで色々変わってしまったなと思いながら、功罪の功と言えば、デジタル化の推進でした。そこからChatGPTなどの生成AIとロボット化が盛り上がり、知識を使う服薬指導や技術を使う調剤がもっていかれてしまうのではないかと。そして2040年に向かって労働生産人口が20%も減っていく暗い話を年末までよくささやかれていました。

そんな中、私自身は辰年のせいかな、そんな不安よりも世の中が変わっていく時こそわくわくします。過去は生成AIが振り返ってくれば、人は前を向くしかないし(未来・夢)、ロボット化が進めば作業や資料作りをしなくて人とコミュニケーションに時間をもっと割くことができるし、人が減ったら、残った人がより重宝されるし(給料2倍?)、じゃあ、その残った人には何が求めているのか? やはりこうなりたい、ああなりたいと夢を抱くことが大切だと思っています。

目の前の患者さま。その患者さまにその人らしく過ごしていただくためには自身が幸せでないと患者さまに不安を与えてしまうと思います。プラセボ効果(偽薬)でなく、ノセボ効果はご存じですか? 不安は治療に影響を及ぼすのです。ゲノム医療が進み個別化治療が進むとしても、やはり人であるからこそ効果はばらつきます。夢をもっている人は目が輝いていますし、患者さまも前向きに笑顔にすることができます。あの人と接すると免疫があがって治療効果があがるなんてエビデンスを出せないかなとったりします。2024年も診療報酬改定だったり働き方改革法施行だったり激動の年ですが、ああなりたい、こうなりたいと思える夢見る辰男辰子が出番です。今年1年もよろしく願いいたします。

「頼られる存在に」

ME室 石井智樹

今年、年男となり執筆の依頼を頂いたので、この12年間を振り返ってみました。

プライベートでは、ちょうど前回の年男の歳に生まれた長男は小学6年生になりました。次男、三男も大きくなりました。

職場では、気付けば先輩の数より後輩の方が多くなりました。私が入職した時の先輩方の様に、頼りになる存在に自分自身がなれているとは思えませんが、子供達の成長に負けずに、少しでも頼られる存在になれるように精進したいと思います。



「これからの12年へ」

内視鏡検査室 松本晃一

皆様もそうであろうかと思いますが、12年という月日は長いようで思いのほか短く、もう干支が一回りしてしまったのかと、2024年辰年、自分が年男であったことすら忘れてしまう日々を過ごしております。

振り返ってみれば、この12年間は私事ではございますが、就職、結婚、子供も生まれ、後輩が何人も出来ました。ひとえに上司や先輩方、ご関係者の皆様のご助力があればこそ、社会人としても人間としても育てていただいた12年間であったと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

何もかもが未知の体験で試行錯誤の繰り返し、それが故に新鮮で楽しい日々であったことを思い出します。得てして楽しい時間はあっという間に過ぎるもので、ああ、あの可愛かった娘はもうパパをぞんざいに扱うようになってしまった。

とは言え、これまでが自身の成長の12年間であったならば、今度は子供たちや後輩を成長させていく12年にしていかなければならない。その番が回って来たのです。果たして、次の辰年までには娘との、皆様との関係はより良いものとなっているのでしょうか。

今後とも皆様の変らぬご指導ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。

「感謝と決意」

亀田総合病院グループ企業年金基金 近藤彩優子

2022年に「オルカ鴨川FC」に入団。毎日15時に仕事を上がりさせてもらい練習に向かう、そんな毎日を繰り返し過ごしていたら、鴨川に来てからあっという間に2年が経ちました。

初めての仕事、初めての町、初めて出会うチームメイト。不安な毎日過ごす中でも有難いことに職場の方の理解やサポートもあり段々と仕事にも慣れてこの町の良さを知りました。そして、チームメイトとも仲良くなった今、オルカ鴨川FCに入団してから目標にしていた、なでしこリーグ1部優勝を達成することができました。

ホーム最終節は鴨川市陸上競技場にスポンサーの方、サポーターの方、地域の方など、たくさんの方にお越しいただき、会場がいっぱいになっている光景を見て胸が熱くなりました。それと同時に毎試合たくさんの方で鴨川陸上競技場が埋まったらいいなと思いました。

「来てよかった! おもしろい! また行きたい!」そんなふうに感じてもらえるようにサッカーを頑張るのはもちろんですが、仕事や地域での活動を通してたくさんの方に女子サッカーの魅力を知ってもらい、2024年は鴨川陸上競技場をもっとたくさんの方で会場を埋め地域とともにオルカ鴨川FC、女子サッカーを広めていきたいです。そして連覇という目標を達成できるよう邁進していきたいと思っています。



病院を守る【保安編】

いつも通っている病院が、事件の舞台になったら…。11月に起きた埼玉県の病院発砲事件で考えてしまった方も多いのではないのでしょうか。病院は病人や怪我人にとって安らぎの空間であるべきですが、24時間出入りすることができ、女性も多い職場ということから、狙われやすいという一面もあります。今回のかめナビでは保安管理課の磯野恒明課長に「病院を守る」ことについて聞きました。

赤ちゃんとお母さんの安全を守る

医療機関の中でもっともセキュリティの厳しい場所のひとつが新生児室とNICU（新生児集中治療室）です。2006年に宮城県で生後間もない赤ちゃんが病院から連れ去られる事件が起きました。この事件を教訓に、動線を工夫したり、セキュリティカメラを配備したりと、多くの医療機関が赤ちゃんとお母さんを守るための取り組みを導入しています。

当院ではさらにテクノロジーを駆使して、赤ちゃんとお母さんを守っています。ひとつは赤ちゃんが指定の場所から離れたときにすぐに知らせるセンサー。病棟のスタッフはもちろん、保安管理課にも連絡が行き、すぐに連携して対応することができます。また、入室エリアも厳格に管理されており、職員であっても直接関係のない人は入れないように制限されています。

防犯から見守るカメラへ

現在保安管理課で管理しているカメラは約300台。防犯目的よりも見守りの意味が大きいそうです。特に最近では認知症のお年寄りが無断で離床、場合によっては離院してしまうケースも増えています。カメラでどこへ向かったのか、おおよその方向を見きわめることができるため、未然に防ぐことにもつながっているそうです。

利便性と安全を支えるセキュリティカード

保安管理課の重要な仕事のひとつは「入館管理」です。医療機関はオープンスペースで、365日基本的に入出入りが可能です。そのため、「どこまで入れるか」「いつまで入れるか」が重要になります。

当院ではセキュリティカードと、カードに呼応した扉で各エリアの管理をしています。例えばお見舞いに来た方は面会当日の、面会可能時間のみ、対象病棟の扉を開けて入ることができます。他にも工事や搬入などを担当している取引企業の方も、必ず防災センターを通りチェックを受けたのちに、行き先に対応するカードを渡しています。セキュリティ上は一律禁止、または人の目の多い日中のみに入出入り可能とすれば簡単です。しかしそうすると利便性が損なわれてしまいます。この分かりやすい例が朝3時ごろに来院するという「もやし業者」さん。病院の調理の都合に合わせて納品してくれているため、しっかり安心して受け入れることのできる体制をとっています。他にも工事や掃除、メンテナンスなども患者さまへの影響が少ないよう、夜間や休日に行っています。このときもセキュリティ管理が大いに役立っています。

防犯の心得

「医療機関はオープンスペースで365日人が出入り可能です。だからこそ連携して未然に犯罪を防ぐことが大切です」と語るのは、保安管理課の磯野恒明課長。磯野課長の前職は警察の生活安全部が主で、ストーカーやDV、虐待などといった事件の対応をしており、病院にとっては非常に心強い存在です。

そんな磯野課長が大切にしているのが、情報共有と初期対応。今年10月に起きた医療機関での発砲事件も「どの程度患者について院内で周知されていたか、そして地元警察と情報共有はできていたのか」と考えたそうです。患者情報を院内で共有し、場合によっては警察にも相談。もし何かトラブルを抱えた人ならば警察とも連携し、犯罪を未然に防ぐことにつながるかもしれません。今回のことを教訓に、「もしこれが亀田ならば」と緊張感をもって報道を見守ったそうです。

なお地元警察署にすぐに相談できることは、磯野課長の強みのひとつ。最近では警察OBが定年後病院に勤めるケースも増えているようですが、やはり生活安全部に所属していた経験が活かしていると感じているそうです。署内での手続きも熟知しており、やりとりもスムーズ。また警察との普段の何気ない情報共有にこそ、事件を未然に防ぐヒントがあると言います。最近の当院の傾向は、保安管理課への相談件数は増えているものの、警察が事件介入するケースは減っているとのこと。職員が早めに報告をしてくれることで、未然に防げていると感じることも多いそうです。

そんな磯野課長が着任して驚いたことは、「いろいろな理由や事情で患者さまが無断で離院してしまい、行方が分からなくなってしまった場合、多くの病院では院外のことは警察に通報して終わりです。その点当院は通報しつつも、見つかるまでとことん職員が探す姿勢にびっくりしました」とのこと。患者さまやご家族に寄りそう姿勢がしっかりと職員に根付いているとお墨付きをもらいました。

防犯の心得

- 1 早目の相談
- 2 情報の共有
- 3 早期の対応
- 4 警察との連携



千葉県は「移動交番」を最も多く所有し、活用しています

Kタワーとクリニックの間に時折やってくる、「CHIBA POLICE」と書かれた青と白のワンボックスカーは「移動交番」です。千葉県警地域部地域課が運用しており、通常の交番と同様に警察官がおり、拾得物を受け付けたり、トラブル相談などをすることができます。移動交番車の取り組みは、実は千葉県発祥。森田健作元知事の父親が警察官だったこともあり、知事発案で2010年に交番の新設を望む住人の声に応える形で誕生しました。今では千葉県内に60台配備されており、そのうちの1台が亀田にやってきました。

受診のついでに相談できること、また犯罪抑止にもつながる移動交番。他にもスーパーや小学校、公民館などを巡回しています。くわしい開設スケジュールは千葉県警のホームページをご覧ください。



防犯計画に基づいた24時間の「安心」を

現在夜間は委託警備となっています。外来患者さまのいない時間帯なので、主に職員の安全を守っています。暗い夜道を帰宅する職員のために、車両も利用して広い病院敷地内をしっかりとパトロールしています。

もともと当院では夜間帯のみ、警備保障会社のガードマンを配置していました。「保安管理室（当時）」はその活動を日中に行うために2002年に設置されたという背景があります。

POINT「警備計画」

24時間体制で隙のない安心・安全のためには「警備計画」が欠かせません。定期的にしつかりと見直し、新しい施設やエリアなどもカバーしています。この企画・立案も保安管理課の大切な業務のひとつです。



2021年、徳島県の町立病院で電子カルテをはじめとしたさまざまな病院システムが突如使えなくなりました。ランサムウェア（身代金要求型ウイルス）によるサイバー攻撃でした。患者8万5千人分のカルテが閲覧できなくなり、新規患者の受け入れ停止のほか、紙カルテで対応にあたるなどしましたが、結局通常診療が再開したのは発生から2か月経ってのことでした。実はこうしたサイバー攻撃を受ける日本の医療機関は増加傾向にあります。私たちが備えるべきことについて、情報管理本部部長の小川理医師に話を聞きました。

POINT ランサムウェア

ランサムとは英語で身代金の意味。端末に保存されているデータを使用できない状態にし、そのデータを元に戻す対価を要求する。「パソコンが再び使えるようにするために（パソコンの中の情報をばらまかれなくなかったら）お金や仮想通貨を振り込め」という手口

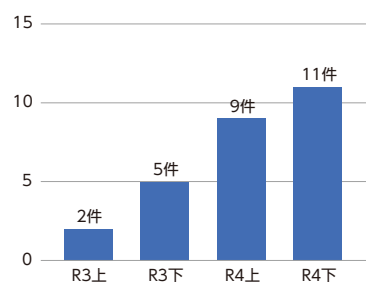


狙われる医療機関

近年増加傾向にある、医療機関を狙うサイバー犯罪。被害も先に述べた町立病院のように社会問題になるようなものから、未然に防げたものまで様々です。また被害を受けているのも小さな診療所から、大学病院、災害拠点病院と幅広いと小川本部長。

こうした犯罪を犯す側も多種多様で、無差別に攻撃してくる場合もあれば、「患者の生命に関わるエリアは手をつけないでおこう」とある意味分別のある犯罪者までいるそうです。そして残念ながらこうした犯罪者が法の下に裁かれることは多くはありません。特にランサムウェアは海外からの攻撃が多く、追跡することは難しく、対策も立てにくいのが実情です。

医療・福祉分野におけるランサムウェア被害件数



令和5年3月 警察庁サイバー警察局「サイバー事案の被害の潜在化防止に向けた検討会 報告書 2023」より

病院を守るために



【システム部門編】

こうした事態に備え、当院では2016年よりKSIRT (Kameda Security Incident Response Team) が対策にあたっています。セキュリティの強化はもちろん、万一の時に迅速に対応するためのチームです。サイバー攻撃は迅速な初動対応が重要で、被害を最小限に抑え、なるべく早く診療を再開できるようなバックアップ体制の構築など幅広い役割を任めています。

内部のチームに加え、当院は2019年から日本シーサート協議会にも加盟しています。日本シーサート協議会とは、業種を超えたCSIRT (情報・コンピューターセキュリティにかかるインシデントに対処するための組織の総称) が連携する取り組みで、大手IT企業はじめ、行政機関から大学や銀行までが参画しています。「職種横断的にサイバーセキュリティの担当者たちが情報共有できる場は非常に貴重」と小川本部長は言います。現時点で加盟メンバーの中で医療機関は当院のみ。医療機関を標的にしたサイバー犯罪の報道を受け、問い合わせも増えているものの、メンバーになるためには諸要件が厳しく、参加が難しい背景があると言います。

【サプライヤー編】

一方でいかに医療機関のシステム担当者が完璧な防御を誇っていても、サイバー攻撃は常に弱いところを狙っています。そのうちのひとつが、「サプライチェーン攻撃」です。

医療機関は外部機器や取引先、協力企業・機関とネットワークを共有することも多い職種です。病院が完璧なセキュリティを誇っていても、ネットワークでつながっている先のセキュリティが脆弱な場合、そこから辿って病院に侵入するケースもあります。これがサプライチェーン攻撃と呼ばれるサイバー犯罪です。

サプライチェーン攻撃は医療機関だけではなく、医療機関と関連したすべての団体のセキュリティも重要になってきます。今年5月に更新された、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第6.0版」にも新たに外部委託・外部サービス利用の際のリスクや注意点が追加されています。以前はわりとやむやみだったのだが、この規定で医療機関やネットワークが繋がっている業者に対して、「このくらいの対策を下さい」とはっきりと明文化されたそうです。クリアするのが難しい項目もありますが、診療報酬の算定要件のひとつにもなっており、医療機関としても重要視するポイントとなっています。

【職員編】

患者データを扱う職員も、当然のことながらサイバー攻撃の知識と警戒が必要です。その代表例が取引先や関連会社を名乗り、巧みに添付ファイルなどを開かせようとする「標的型攻撃メール」です。IPA (情報処理推進機構) が発表している情報セキュリティの情報セキュリティ10大脅威 2023でも、ランサムウェア、サプライチェーン攻撃に次いで3位にランクインしています。職員教育と同時に、いざというときにはKSIRTに速やかに相談できるような体制を構築しています。

一方でこうした最新の対応を学ぶこと以上に、「職員に守ってほしいのは、ごく当たり前のこと」と小川本部長。例えばログインをしたまま席を立たないことなど、以前から言われていることが大切だと言います。でも忙しい医療従事者がつい忘れてしまうことも多く、定期的なセキュリティリスクの教育は大切だと感じているそうです。

防犯 POINT 詐欺メールにご注意!

クレジットカード会社や宅配・通販会社を名乗って送られてくる詐欺メール。利用したことのあるサービスだと本物と見分けがつけにくい。見分けるポイントは二つ。まずはメールアドレスの確認を。詐欺メールの場合は「@」マーク以降がおかしいケースが多い。二つ目は心配な場合は面倒でも問い合わせをすること。

ガイドラインのある場所で

セキュリティのためには外部サービスなどは一切使わない方針でいたほうが簡単ですが、一方で業務が楽になることも多く、一律に禁止することは難しい。そこで亀田ではこうした外部サービス利用のための各種ガイドラインが決められており、院内の決められたルールのもとでの利用を許可しています。勝手に使用され、予想もつかないリスクを起こすよりは、ガイドラインで「ここからここまでは使用して大丈夫ですよ」と決め、利便性を損なわない工夫といえます。

最近更新されたガイドラインは話題の「生成AI」についてです。AIの進歩は目覚ましく、ガイドラインの更新頻度も増えそうです。もはやAIを無視してよい時代ではないし、実際業務におけるメリットは多い。一方でAIが思わぬところで学習内容をアウトプットしてしまったり、思いもよらない架空の情報を平然と出してくることもあるため、まだまだセキュリティの対策や、人のチェックの必要性を痛感しているそうです。小川本部長はこの状況を切れのいい包丁に例える。「包丁は料理にとって最高の道具だが、同時に人を殺す道具にもなりうる。」それを意識した上での使用が大切だと話しています。

今後の展望

ITの力により距離が問題でなくなっている今、ますます遠方の患者が来院する機会が増えることが想定されますが、事前の手続きや、やりとりなどもオンラインで完結することでしよう。ネットワークは広がり、利便性が高まる一方で患者情報といったやりとりが頻回に発生するリスクもあります。当然ガイドラインや、セキュリティの整備も必要になるでしょうが、利便性とセキュリティをどう両立させていくのか、また見えない外部の敵とどう対峙していくのか、医療機関も真剣に向き合わなくていけない時代が来ている、そのように感じました。

患者さまの「ごめんね」の声 で気づいたこと

看護部 上村 望柚子



いつからこの患者さまは何かを話す時や頼みごとをする時に、「ごめんね」というようになったのか。

Hさんは、入退院を繰り返しており、今回も退院後すぐに敗血症性ショックで再入院となった。入退院を繰り返すたびにADL(日常生活動作)が低下し、今では自力で体位交換することや、水を飲むこと、ご飯を食べることも困難になっている。入院当初は怒りっぽく、自分の意見が通らないと不機嫌になり、ナースコール対応が多い方であった。なるべくナースコールにはすぐに対応していたが、他の患者さまの対応もしなければいけない中で一人に付きっきりになる事もできず、「お待ちください」と対応できない場面もあった。

段々と病状が進行していき、訪室してもナースコールを押したことを忘れて「何だっけ」「僕は何してたらいいのかな」という質問が繰り返されることが多くなった。そんなHさんにわたしは何と声をかければ良いのだろうと言葉に詰まるようになった。そしていつからか、わたしたちの顔を見てHさんは「そんな顔しないでよ」「ごめんね、疲だしたいの」「忙しいんだね」「忙しいのは分かってるけど、僕にもかまってよ」と話されるようになった。訪問中、わたしのPHSが鳴る度に、「僕の番なのに、せっかく来てくれたのにもう行っちゃ

の?? 行かなくていいよ」という言葉を繰り返す姿をみて、今までの自分の対応を振り返り、忙しいことを理由に簡単にいつも「待っていてくださいね」と言っていたことを申し訳なく思った。Hさんに我慢させていたことに気付くことができた。その後は、なるべく頻回に病室を訪れたり、ナースコール時すぐに訪室できないときはナースコール越しに会話するなど、できるだけHさんが寂しいと思う時間を減らすことができるように努めた。最終的には病棟スタッフが丸となり、受け持ちでなくても誰かが入れ替わり立ち替わりで病室に顔を出すことでHさんの笑顔の時間が増えた。

わたしにとって病院は職場であり、仕事をする場所という気持ちが強くあったが、Hさんを受け持つ中で患者さまにとってここは生活をする場所なのだと気がついた。もし自分が家で自由に水も飲めなかったらどうだろう、テレビを見たい時にリモコンに手が届かなかったらどうだろう、トイレに行きたい時にすぐに行けなかったらどうだろう。そして誰かに頼まなければできないことであればどうなってしまうのか考えた。何か頼んだ時に「待っていてくださいね」と毎回言われ続けたら自分はどう思うのだろうか。とても嫌で、悲しいことだと思う。点滴や手術出しなど時間で行わ

看護師のヒューマンスキル

看護管理部長 渡邊八重子



「お待ちください」は相手に待ってほしいことを少し丁寧に伝えるときに使います。ビジネスシーンでもよく使われる言葉で、医療や看護現場でもよく使われていると思います。今回、患者さまが何かを話す時や依頼をする時に「ごめんね」というようになったことが気がかりとなったこと、さらに忙しいことを理由に簡単に「お待ちください」と言っている自身の関わりが誘因となっていることに気づけたことが素晴らしいと思いました。

看護師は患者さまの身体的な苦痛だけでなく、精神的及び社会的な苦痛も理解することで、適切なケアを提供することができます。何か頼んだ時に「待っていてくださいね」と毎回言われ続けたら自分だったらどう思うだろうか。常に患者の立場になって考える力、高い共感力(患者さまが何を感じているのか理解する)といった看護師のヒューマンスキルが重要で不可欠であることを改めて認識することができました。

日本の人口減に伴い50年後に

は医療現場で働く看護師数も半減します。半分の人数で2倍の看護を提供するには「未来の働き方」を創造し示していかなくてはなりません。2024年度、看護部が新たに取り組むべきことは何か。第一は看護師個人の能力を向上させる、チーム力を向上させる、組織力を向上させること。第二はICTやAIを上手く看護業務にとり入れ活用すること。第三は看護管理者の変革能力を向上させていくことだと考えています。

ければならない業務に追われて、患者さまを待たせてしまう場面はあるが、患者さまにとって病院は生活をしている場であり、それぞれの生活スタイルを壊さないようにしていかなければいけないと思った。

Hさんについて考える中でわたしは、病気の患者さましか見えていなかったのだと思った。限られた時間の中で多重課題に追われる場面もあるが、その時間は患者さまにとっても大切なものな

のだと気付いた。早川ゆかりら(2015)は“安心してここに居られる状況とは、人として正に扱われ、疾患や状態にだけ注目されているのではなく、人に関心をもたれていることを感じられる状況である”と記している。業務をこなすことも大切であるが、日々忙しい中であっても、患者さま一人ひとりと向き合うことも大切にしていきたいと思う。

(引用文献) 早川ゆかり, 小島通代(2015): 患者の入院生活に看護が及ぼす影響, 日本看護科学会誌, 第35巻, 176-183

CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

亀田京橋クリニック 祝10周年!!



「東京でも亀田クオリティ」を掲げ、2013年に開院した亀田京橋クリニック。鴨川市の亀田メディカルセンターの入院前診察や検査を行うゲートと、退院後のフォローアップを行う重要な拠点として首都圏からの患者さまや、周辺企業の保健室として欠かせない存在となりました。

オープン当初は2階事務と4階クリニックの2フロアでしたが、途中フロアを拡張し、6階にクリニック、4階を健康管理センター、また2021年には1階に亀田京橋スポーツ医科学センターを開設するなどこの10年で大きく躍進しました。

岸本誠司院長からは、「スタッフ一力を合わせ、つぎの10年に向けて良いスタートを切ることができた。今後ともご支援の程よろしく申し上げます」とコメントをいただきました。

D棟解体工事進む

院内の耐震化促進の一環として、今年3月から準備工事が始まったD棟解体工事。8月中旬より解体工事用足場が組まれ、10月上旬からは重機による建物解体が9階部分から着々と進められています。

病院の耐震化については、地震発生時の病院建物の倒壊・崩壊を防ぎ、入院患者等の安全を確保すると共に被災者に適切な医療を提供していく観点から、重要な課題となっています。

千葉県より基幹災害拠点病院の指定を受ける当院でも1971年竣工の旧耐震基準で設計されたD棟の取り壊しが数年来の喫緊課題となっていました。そのため、G棟の建設やB棟、E棟の改修工事を進めるなど、D棟内の機能移転を完了し、D棟の解体工事の着工に至りました。

解体工事にあたっては、安全な作業環境を確保しながら注意深く作業を進めており、3月末には跡地整地までが完了する予定です。

亀田スポーツ医科学センター 新スタジオ完成

亀田クリニック5階のメディカルフィットネス施設「亀田スポーツ医科学センター」内に、この度、新たなコンディショニングスタジオが完成しました。

元タプルだったスペースをフローリング張りのスタジオに改修したもので、鏡で動作や姿勢を確認しながら運動に取り組める造りになっているため、アスレティックトレーナーなどの指導にあわせて正しいフォームを身に付けて効果的なエクササイズが行えるようになりました。運動の種類や強度別に実施している約80種類のグループセッションなどに使用し、今後新たなプログラムも充実させていく予定です。

亀田スポーツ医科学センターでは、小さなお子さまからご高齢の方、スポーツ愛好家からトップアスリートまで、一人ひとりの目的に応じて運動指導専門の有資格スタッフが、スポーツ医科学的



根拠に基づき、生活習慣病の運動療法から、整形外科疾患、競技力向上までの専門的な運動指導を提供いたします。提供メニューや費用など詳細は、ホームページをご覧ください。

【ご予約・お問い合わせ】

初回はオリエンテーションをご予約ください。ご利用方法をご案内いたします。

亀田スポーツ医科学センター **04-7099-2345**

月～水・金 **8:40～20:00** (最終受付 19:00)

木・土 **8:40～17:00** (最終受付 16:00)

放射線治療装置 新機種に

このたび、亀田総合病院ではがん治療で使用する放射線治療装置1台を機種更新しました。

放射線治療はがん病巣部に放射線を当ててがん細胞を死滅させる治療法で、外科療法や化学療法と並んで、がん治療の3大治療法のひとつです。

C棟1階放射線治療センターでは2台の放射線治療装置が稼働し、1日40件から最も多い時で60件の放射線治療が行われてきました。しかし導入から13年が経過したことを受け1台を10月半ばに更新しました。これまで当院では行えなかった脳

位放射線治療も可能になったほか、従来の装置に比べがん病巣部以外への被ばく線量の低減や治療時間の短縮など、治療を受ける患者さまの身体的負担が軽減され、より安全で精密ながん治療を提供できるようになりました。



亀田リハビリテーション病院 全ベッドリニューアルで 安全対策強化

さまざまにリニューアル計画が進む亀田リハビリテーション病院で、9月26日(火)、入院ベッド全56台の入れ替え作業が行われました。

機能障害の改善や日常生活動作の向上、自宅復帰を目的に集中したりハビリテーションを実施する回復期リハの現場では、転倒予防の取り組みが不可欠です。

そのため歩行や立位が不安定な方のベッドサイドでの転倒予防対策として、これまでは外付けの離床センサーを設置していましたが、センサーの配線がつかず原因となったり、患者さまがご自分で離床センサーを取り外す、あるいはまたぐなどしてセンサーが作動しないことが課題でした。そ

で今回の入れ替えでは離床センサー内蔵型のベッドを導入。患者さまの状態にあわせて、離床時に細かなアラート設定ができるようになりました。

また、転倒リスクの高い患者さま向けに、超低床ベッドも2台導入されました(写真)。夜間はベッドの床板を一番下までさげることで床との高低差が20センチ程度となり、就寝中誤ってベッドから転落してもケガをしづらい安全対策が施されました。



“世界糖尿病デー”イベント

11月14日(火)「世界糖尿病デー」にちなんで啓発イベントを、亀田クリニック1階ロビーで4年ぶりに開催しました。日頃の健康管理に役立ててもらおうと、糖尿病治療にかかわる専門職が、血糖測定やかたん足腰チェック、歯科相談、栄養相談、お薬相談の各ブースを出展しました。また、糖尿病の予防や治療について、糖尿病専門医や視能訓練士、歯科衛生士によるミニ講義も行われ、外来受診のついでに立ち寄られた患者さまなど大勢の来場者で賑わいました。参加者からは、「糖尿病の食事管理について勉強になった」「自分の血糖値や筋力を知ることができて良かった」「お薬の相談ができて安心した」「糖尿病と歯科の関係に驚いた。歯磨きの実演があればもっと良かった」などの感想が聞かれました。

また、亀田総合病院Kタワー13階レストラン亀楽亭では、「全国糖尿病週間」に合わせて11月13日(月)～18日(土)の6日間、当院の管理栄養士が地産地消



にこだわって栄養バランスを考えた献立、ヘルシーメニュー「ブルーサークルランチ」を1日20食限定で提供し、大人気でした。

自動精算機を導入

亀田総合病院ならびに亀田クリニックでは、12月より医療費(診療費・入院費)の会計方法をこれまでの対面の窓口払いから、機械(自動精算機・セミセルフレジ)による支払いに変えました。

コロナ禍の影響か硬貨を触りたくないという方が増えたことや、日頃のお買い物でもカード決済が増えてきたことなどから現場担当者の意見などを取り入れて導入を検討してきました。

START

オルカ鴨川FCは2014年1月に、
 当院が設立母体となって誕生しました。そのきっかけは東日本大震災。福島第一原子力発電所の事故により、日本サッカー界初のナショナルトレーニングセンターであったJヴィレッジが閉鎖され、日本サッカー協会に知り合いのいた当院スポーツ医学科主任部長の大内洋医師の提案により、なでしこリーグを目指す女子サッカーチームとして創設されました。

オルカの選手たちは平日午後3時まで仕事をし、その後は練習というスケジュールで、多くは亀田総合病院で働いています。そんなオルカとともに歩んだ10年間の軌跡をご紹介します。

オルカ鴨川FC 10年の軌跡



初代監督は 北本綾子さん

元日本代表。選手兼任監督として、ゲームの指揮を執りつつオルカ鴨川FCの試合でも中心選手としてプレーをし、観客を魅了しました。現在はゼネラルマネージャーとしてチームをサポート



エンブレム決定

ブルーは鴨川の水、イエローは菜の花、グリーンは松の木をイメージ

オルカ公式 ショップ BlauerKreis OPEN!



未来のなでしこを育てるため、 2016年にオルカ鴨川BU発足!

2017年にオルカ鴨川FC U-15、2018年にオルカ鴨川FC U-18が続いて発足。亀田医療大学や国際武道大学の学生、亀田職員が中心のチームに。オルカ鴨川FCに憧れてサッカー選手を目指す子ども達が急増中です



コロナ流行で
無観客試合に
YouTubeでの
応援が広がる

2022年より、 元日本代表で、 アトランタ五輪では キャプテンを務めた 野田朱美氏が監督に就任



しっかりと「攻撃」を意識したチームを作り上げた監督と27人の選手がいよいよ決戦に挑む!!



移動のためのオルカバス。鮮やかなオルカブルー色にこだわりました!

2016年、 チャレンジリーグで優勝、 2017年からいよいよ なでしこリーグ2部へ

女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」創設に伴う再編で、21年からなでしこリーグ1部へ。なかなか結果が出せず悔しいときでも「地域と共に」を合言葉にあきらめませんでした



亀田医療大学にて キックオフパーティ

地元の方が持ち寄った船盛りやなめろうに舌鼓



地域の名店 「オルカ横丁」 で味わって

GOAL

なでしこリーグ1部優勝! そして次の未来へ!



2023年10月、大勢のファンが見守る中、ホームの鴨川市陸上競技場にてなでしこリーグ1部優勝を果たしました!

しかしオルカ鴨川FCはまだ挑戦をつづけます。引き続き応援をよろしくお願いいたします。

当院 スポーツ医学科 とともに

医師やリハビリ、トレーナーらが選手たちをしっかりサポート。怪我をした対戦相手の選手のケアをして話題に

2015年、 千葉県1部リーグで優勝!

関東リーグを飛び越え、なでしこチャレンジリーグ入りを果たしました。南房総から全国区的女子サッカーチームとして、地域もオルカブルーで盛り上がりました!



キーワードは「地域と共に」

地域の声援こそが何よりのパワー! そんなオルカ鴨川FCは地域とのつながりを大切にしてきました



警察署交通安全PR協力



オルカなでしこサッカー
スクール2015年開校



Kameda Cup

病院は誰かの仕事でできている



PET-CT 画像は語る

過度なおしゃべりやカラオケNG

しゃべる事でのどや舌に薬がより集積するため、口腔内やのどの診断に影響する場合があります。検査前日から必要以上の発声(おしゃべり、歌など)はほどほどに。



運動・筋トレNG

ブドウ糖は筋肉のエネルギー源です。検査前日でも水泳やテニスなど激しい運動をすると、よく動いた筋肉に薬が強く集まります。また、腹筋や背筋の筋トレは胸部から腹部の広い範囲のがんの診断の妨げになる場合も。

検査5時間前から食事NG

いつもの習慣で「コーヒーやヤクルトを飲んでしまった」「ごはんやおせんべいを食べてしまった」...などの理由から、検査の遅延や延期になることも!? 食事や糖分の摂取で血糖値が上がると、がん細胞や臓器などへの薬の取り込みが悪くなります。また、全身の筋肉や脂肪に薬が集まり画像のコントラストが下がり、小さな腫瘍などがわかりにくくなるため、検査5時間前から食事の制限があります。



(看護師チーム)



(診療放射線技師チーム)

精度の高い検査にはチームの連携がカギ

- ・薬剤師 (薬剤の品質チェック)
- ・医療事務 (受付・案内・会計)
- ・看護師 (測定・問診・薬剤投与・観察)
- ・診療放射線技師 (撮影、検査装置の管理・点検)
- ・放射線科医 (読影)



今回の部署 PET-CT センター

がん細胞は正常な細胞に比べて多くの栄養(ブドウ糖)を取り込みます。この性質を利用したのがPET-CT検査です。微量の放射線を発するよう合成されたブドウ糖に似た薬(FDG)を体内に投与してから専用のカメラで撮影すると、がん細胞が光っているように表示され、がんの位置や大きさ、活動の状態を判断することができます。一度の検査で全身を調べられ、病変の悪性度と活動性を見ることができるところから、検診や治療前の病期診断、治療後の再発・転移診断と、広く活用されています。

当院では2006年にPET-CTセンターを開設し、2台の装置で年間3,000件超の検査を実施しています。

\\ やりがい \\ \\ 仕事の魅力 \\ \\ 大変なこと \\

時間との勝負

検査に用いる薬剤は時間とともに放射線量が減少するため、早朝からその日の予約状況に応じた量の薬剤を調製します。製剤中のトラブルで一から作り直しとなれば検査スケジュール全体に影響するほか、調製中は被ばくにも注意が必要なので緊張感が伴います。(薬剤師)



受付をして検査、会計をするまで、スムーズに工程が進むよう時間調整をしつつ、患者さまの状態などにも目配り、気配りするよう努めています。(医療事務)

検査を安全に行うための配慮

患者さまが安心・安全・安楽に検査を受けられるよう、検査説明では個々にあわせてわかりやすい表現や言葉を選ぶなど、検査に対する不安が少しでも軽減されるよう努めています。トラブルなく無事に帰宅される姿を見るとほっとします。(看護師)

検査に用いる薬は、投与後、放射線量は速やかに減衰・排泄されるため、将来的な放射線障害への影響は心配ないとされています。ただし、車イスやストレッチャーの患者さまは移乗や排せつ時に介助が必要となるため、医療スタッフは線量計を身に着けて業務を行い、毎月、外部被ばく線量測定の結果を報告を行い、定期的に放射線健康診断を受けています。(診療放射線技師)



検査中動いてしまうと画像にブレ

PET-CT検査は痛みや不快感の少ない検査です。ただし、PET画像とCT画像の両方を撮影するため、撮影に30分ほどかかります。病状によって体に痛みのある方は無理のないポジションで苦痛がないよう配慮しながら行います。(診療放射線技師)

がんの画像診断だけじゃない!? 認知症の早期発見に「アミロイドPET検査」を準備中

SECRET

国内の認知症患者は2025年には約700万人、65歳以上の約5人に1人に達すると言われていて、そのうちアルツハイマー型認知症は認知症の原因の6割を超えるとされ、早期発見・早期治療でカギとなるのが「アミロイドPET検査」です。

「アミロイドβ」がアルツハイマー型認知症の原因

脳内にアミロイドβと呼ばれるタンパク質が蓄積することがアルツハイマー型認知症の原因の一端であることがわかってきました。アミロイドβは発症の10年以上前から脳内に蓄積し、それが神経細胞の障害をきたし認知機能が低下すると考えられています。

アミロイドPET検査でアミロイドβの脳への蓄積を可視化

アミロイドβ蓄積の有無を調べることで、より正確に原因タンパクを評価することができ、認知症の予防や治療方針の選択に役立つと考えられます。当PET-CTセンターでも、アミロイドPET検査を行えるよう準備中です。

撮影した画像は放射線科専門医が読影を行います。

(2023年11月末の取材内容です)



PET-CTセンターはこんな職場

・和気あいあい
多職種で協力しながら一つの検査を組み立てているため、チームの結びつきが強く、職場は和気あいあいとした雰囲気。

・困った時の「小出さん」
職種を問わずスタッフが厚い信頼を寄せるのが診療放射線技師の小出真也さん。開設当初からのメンバーで豊富な知識を誇る。気配り上手で場の雰囲気や和ませ、トラブル発生時も頼れる存在! 一部のファンから「コイデデンキ」と呼ばれている。

・可愛い「うちの子」にメロメロ♡
猫好きとして知られるダンディーなHさん。スマホの写真ホルダーには2歳になる愛猫カール君の画像があふれている。

・植物男子ベランダ
子どもの頃から植物好きなお子さん。最近はおっぱらベランダガーデナー。柵を飛び出すようにご機嫌なコキアがすくすく成長中。

私の元気のひみつ



亀田総合病院報

No. 277

亀田ホームページ <https://www.kameda.com>

2024年1月1日発行 (隔月発行) 発行責任者: 亀田隆明 編集: 広報企画室

発行: 医療法人鉄蕉会 〒296-8602 千葉県鴨川市栗町 929

当広報誌は個人情報保護のもと本人の了承を得て作成しており、本用途以外の転用は固くお断りしております。

All articles on this PR magazine has been printed under the permission of the subscriber to protect their personal information.

All editorial content and graphics may not be copied without the permission of Kameda Medical Center, Public Relations which reserves all rights.

